

第 19 回福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会議事概要（書面開催）

I. 開催日時および場所

日時：2020 年 3 月 24 日（火） 書面開催

II. 委員

別紙名簿の通り【資料 1】

III. 資料

- 議事次第
- 資料 1 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会委員名簿（2020/2/28 版）
- 資料 2 福島県双葉郡教育復興ビジョン推進協議会（第 18 回）議事概要
- 資料 3-1 令和元年度双葉郡教育復興ビジョン取組実施報告
- 資料 3-2 取組実施報告別紙 - 新聞等掲載記事
- 資料 4 広報誌「ふたばの教育」Vol.10 2020 年春号
- 資料 5 各町村教育委員会の現状と課題
- 資料 6 R2 年度双葉郡教育復興ビジョン推進体制・委員会等の構成、取組一覧（案）
- 資料 7 R2 年度双葉郡教育復興ビジョン取組実施計画（案）
- 資料 8 今後の双葉郡教育復興ビジョンのさらなる推進についての委員意見
- 資料 9【セット版】（文科省資料）福島関連事業まとめ

IV. 議事内容

1. 開会

2. 前回（第 18 回）議事概要確認【資料 2】

3. 議事

1) 今年度の各取組実施状況について【資料 3】【資料 4】

- 中高生交流会の開校式やふるさと創造学サミットのオープニングおよびクロージング・セレモニー等、生徒主体の関わりが定着してきている。次年度以降も進められる部分は生徒主体の企画・運営を継続する。
- ふるさと創造学については、子どものふるさとのことを知らない教職員がどのように関わっていくのか、同じ双葉郡でも各校の置かれている状況は大きく異なるので、今後の取組をどのような体制で進めていくのが課題。
- 広報誌「ふたばの教育」の制作に Google Apps を活用した広報誌の素材の

提出が定着した。今後も工夫をこらした ICT 活用方法を検討する。

2) 各町村教育委員会の現状と課題【資料 5】

○ 浪江町

- ✓ 個人差が大きく、様々な配慮を要する児童生徒がおり、一人一人の個性に対応した指導、加配教職員の活用による複式学級解消、小学校・中学校間の相互指導等に取り組んでいる。
- ✓ 極少数だが、複数学年・校種合同による教育活動の展開、様々な団体や学校等と交流活動等により、社会性・コミュニケーション力を育成している。
- ✓ 地域に根ざした活動体験とふるさと意識の醸成のため、地域の宝探し活動（ふるさと創造学の質的充実）に取り組んでいる。

○ 葛尾村

- ✓ 極少数ではあるが、ICT等活用による遠隔合同授業や体育等の合同授業を実施したり、地域の方々との交流機会を設定したりして、社会性や思いやりなどを育む交流、集団での学び等の場、機会をつくっている。
- ✓ 地域の伝統等の学習機会の設定、子育て世代への支援を行い、少人数のよさ、地域のよさを生かした魅力ある教育に取り組んでいる。
- ✓ 上記施策等を実施するための国・県の支援（復興推進加配等）継続を依頼している。

○ 双葉町

- ✓ 避難訓練・運動会・防災訓練・せんだん祭等、柔軟な小・中連携による教育活動を行っている。また、錦小、渡辺小との交流活動等、いわき市の地域の協力による特色ある学校教育を展開している。
- ✓ 少人数指導のより効果的な実践に組織的に取り組んでいる。
- ✓ 私物（学用品等）の返却、整理整頓（処分）等の課題も残る、意向調査集計中で、令和2年7月から8月中に、私物返却実施予定。
- ✓ 令和2年9月中に「学校施設等の在り方検討委員会（仮称）」の立ち上り予定。

○ 大熊町

- ✓ 小・中学校を立ち上げてから9年。家庭や保護者の事情により、園児、児童・生徒数が激減した。厳しい状況だが、大熊町教育大綱、大熊町第二次復興計画改訂版の施策の実現に向け、取り組んでいる。
- ✓ 避難生活では社会教育の活動の場を生み出すことが困難だが、社会教育主事有資格者および社会教育指導員を配置し、社会教育の復興・充実に努めている。

- ✓ 昨年4月の一部区域の避難指示解除、徐々に帰町が進んでいる。教育施設の基本構想・基本計画がまとまりつつあるが、それをどう具体化するかが一番の課題。

○ 富岡町

- ✓ 極小規模の学校同士でテレビ会議システムを活用し、遠隔合同授業を実施。学習の中に意図的に子どもが交流・意見交換する場を仕組むことで教育効果の向上を図っている。
- ✓ 遠隔合同授業は、教員研修の場としても大いに活用できる。校内に同学年、同教科の同僚がいない環境では、授業終了直後に行うリフレクションは、課題が鮮明なうちに行えるので、短時間でも授業改善に向け非常に有効な手段となる。

○ 川内村

- ✓ 村での生活者は、ここ3年間ほぼ横ばい状態。帰還を加速させつつ新たな住民を迎え入れる必要がある。
- ✓ 村の教育環境整備事業は、平成29年度に基本構想をまとめ、平成30年度に設計、今年度と来年度で認定こども園と義務教育学校の建設工事、令和3年4月の開園、開校に向けてここまではほぼ計画どおり進捗している。
- ✓ 昨年の3月に義務教育学校の教育基本計画を策定し、これに基づき9年間の教育課程を現在検討中。また、昨年4月に学校運営協議会を発足させ、3月5日には学校評価と来年度の運営方針等を審議する。

○ 檜葉町

- ✓ 学校・子ども園を檜葉町で再開して、3年目。徐々に子どもたちの数も増加傾向にある。これも、国・県の手厚い支援により生活環境の整備が進んだこと、教育環境が充実したこと等が保護者、地域の方々に徐々に理解されたことも要因の一つ。改めて、支援に感謝したい。
- ✓ 昨年から、中学校で地元の企業と連携した商品開発・販売を行う模擬会社を設立し、キャリア教育を実践している。今年も日本橋ミデッテ等において、商品販売活動を実施したところ。
- ✓ 郡内全体の傾向として、数字上に表れない個別に支援の必要な子供が多く、かつ、少人数が故の個別指導が大規模校と差別化できる教育環境と考えている。加配の先生等の継続的な支援をお願いしたい。

○ 広野町

- ✓ 小中学校の児童・生徒数は84%が戻ってきている状況だが、震災前の児童・生徒数と比べると、少子化が進んでいる状況。
- ✓ 学校と地域の連携・協働を進めながら、魅力化検討委員会で示された

「5つの提言」を軸に、現在、2020年度から2024年度の5年間の第二次広野町教育ビジョンを策定中

- ✓ 課題としては、避難生活での環境の変化等により、精神的に疲弊している児童生徒が依然として多い等、児童生徒等のための復興加配教員や緊急時スクールカウンセラーの配置が必要。また、GIGA スクール構想に伴う学習環境の整備、新学習指導要領に対応するための教員研修の充実等、新しい時代が求める人材育成に向けたソフト面、ハード面の整備を強化していく必要がある。

3) 令和2年度推進体制・行事計画案【資料6】【資料7】

- これまでのノウハウを活かし、各取組間の連携をより強めながら、更に充実した取組を目指す。

4) 今後の双葉郡教育復興ビジョンのさらなる推進について【資料8】

- Google ドライブによる各学校の取組状況の共有（ふたば生徒会連合）
 - 以前、ドライブ上に学校ごとのフォルダを作成し、各校がそれぞれの取組の写真や動画などを適宜アップし、情報共有していた。次年度、運営方法を改善しながら再開してはどうか。
 - サミット等以外でも他校の取組を知る機会を設けることが、自校の取組の改善に繋がるのでは。

5) その他

- (1) 委員からの情報共有【資料9】
- (2) 今後の協議会開催予定【資料7】
 - ⇒ 次年度も2回（5月、2月）の開催を予定

4. 閉会